

環境学習コーディネート実施概要（Web掲載）

依頼No	13	事例No	8	依頼者	日進市立東小学校	実施場所	日進市立東小学校
実施対象	日進市立東小学校4年生（3クラス 計102名）						
実施日時	令和元年10月24日（木）9時～10時30分・10時30分～12時00分、25日（金）10時30分～12時00分（クラス別に実施）						
テーマ	ストップ!!地球温暖化 未来の地球と私たちの暮らし						

●依頼内容

小学校4年生の総合的な学習の時間「もっと知りたい身近な環境」の講師を紹介してほしい。授業は生物多様性、地球温暖化、ESDや省エネルギーの分野で3回行いたい。

●講師：愛知県地球温暖化防止活動推進員 村瀬政彦氏

村瀬政彦氏は、愛知県地球温暖化防止活動推進員であり、愛知県の環境学習の講師としても登録していただいております。地球温暖化防止のほか、ごみ・資源循環・3R、エネルギー問題などを専門とされている。

●授業の内容

座学	はじめに、パワーポイントを使って、2100年の未来の天気予報、最近の異常気象や地球温暖化による影響、温暖化の原因である二酸化炭素や温暖化への備えについて説明が行われた。つづいて、地球温暖化のもととなる二酸化炭素を吸収してくれる樹木（葉っぱ）の働きについて学んだ。	40分
校庭での調査・観察	座学で学んだ樹木（葉っぱ）の働きをもとに、校庭に生えている樹木の調査とその観察を行った。樹木の種類や幹の太さを調べ、それをもとに教室にもどってそれぞれの木が吸収してくれる二酸化炭素の量を計算した。また、その量がふだん自分たちが使用しているテレビや冷蔵庫の電気使用量と比較してどれくらいになるのかについても学んだ。	20分

●授業の様子

はじめに理科室でパワーポイントを使って授業が行われました。2100年の未来の天気予報で夏の最高気温が40℃を超えること、気温が30℃を超える真夏日の日数や大雨や台風などにより災害が現在より増えるという話に子どもたちはたいへん驚いた様子でした。座学の後半では、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収してくれる樹木の働きについて学びました。その後、子どもたちは外に出て、グループごとに校庭に生えている樹木の樹種を調べたり、巻き尺を使って幹回りの太さを測ったりしました。また、木陰と日当たりの温度や湿度の違いについても実際に計って調べたり、樹木の枝に大きなビニール袋をかぶせたりすることで、木の葉の蒸散の働きについても学びました。さらに、子どもたちは教室にもどって、自分たちが調べた樹木が吸収してくれる二酸化炭素の量の計算もしました。子どもたちは校庭での観察、調査に楽しそうに取り組んでいました。

地球温暖化について学んだ



校庭の木がどれくらいCO2を吸収しているかを調べた

